

第24回ふるさと歴史館企画展
廣瀬栄一コレクション

瓦

編



東城寺（土浦市）



結城廃寺跡
（結城市）



下総国分寺跡
（千葉県市川市）



前峰廃寺跡
（つくば市）



姫路城
（兵庫県姫路市）



現在の廣瀬商店の様子

銘酒「白菊」と廣瀬栄一

石岡市高浜にある廣瀬商店は文化2年（1805）にはすでに酒造業を営んでいたと伝わり、その銘柄「白菊」は広く知られています。その廣瀬商店5代目・慶之助の後を継ぎ、6代目となったのが廣瀬栄一です。栄一は家業の経営の傍ら文化財にも興味を持ち、その保護保存に尽力しました。日本人類学会や日本博物館協会において評議員を務め、石岡市内では常陸国分寺跡に関する論考も執筆しています。戦後は「白菊古文化研究所」を設立し発掘調査をしながら考古学者の育成に尽力しました。

今回は廣瀬家から寄贈を受け、石岡市が所蔵する資料のうち古代から近世にかけての瓦を紹介します。

令和3年1月6日（水）～3月28日（日）

開館時間 午前10時～午後4時30分

月曜休館（祝日の場合は翌日）入館無料

石岡市立ふるさと歴史館

石岡市総社1-2-10 石岡小学校地内 Tel: 0299-23-2398



(左) 『権現山古窯址』発掘調査報告書

白菊古文化研究所が刊行した発掘調査報告書。少なくともこのような報告書が三冊は刊行されたようです。この時期の廣瀬栄一資料は現在、名古屋市博物館に寄贈され、寄贈品展も開催されました。

(下) 台渡里廃寺跡 蓮華文軒丸瓦

古代那賀郡の郡寺である台渡里廃寺跡で確認された軒先の瓦。この文様の瓦は高井悌三郎の調査のみで存在が知られていましたが、詳細は不明でした。一部しか残存していませんが丸瓦部分が「泥条盤築」という珍しい技法で作られていることがこの資料から判明しました。

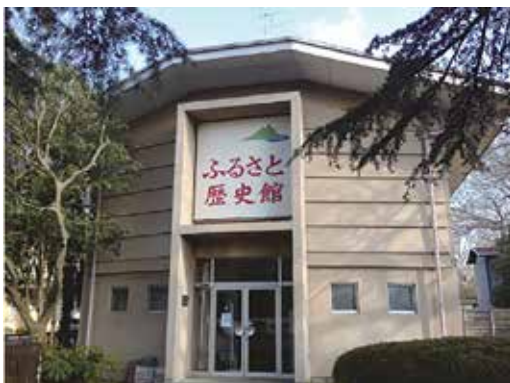


(上) 姫路城 軒丸瓦

榊原氏の家紋である「源氏車」が施されています。姫路城公式サイトによると慶安2年(1649)に榊原忠次が城主となっています。

(右) 新治廃寺跡金堂の現況

古代寺院の基壇が現存し、礎石も確認できます。栄一資料には上野原瓦窯の遺物もあり、寺院のみでなく瓦窯にも注意を注ぐ視野の広さがうかがわれます。



石岡市立ふるさと歴史館

開館時間 午前10時～午後4時30分
 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
 交通 JR常磐線石岡駅西口より徒歩約12分
 駐車場あり
 住所 石岡市総社1-2-10 石岡小学校敷地内
 電話 0299-23-2398

